

東建パブリニューズ

平成30年1月17日

経営管理本部 広報 I R 室

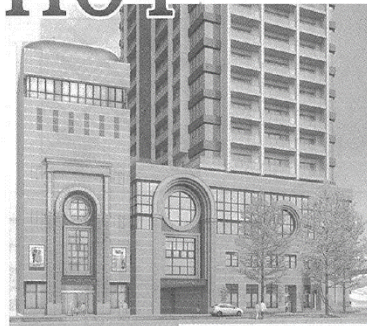
《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成30年1月7日 時局 P. 46・47

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

HOT Person



「栄タワール」の建設工事が進んでいます。併設される美術刀剣博物館「名古屋刀剣ワールド」の内容もかなり固まってきたようです。

左右田 重要文化財、重要美術品とされている刀剣をはじめ、常時200点以上の日本刀と美術的価値の高い甲冑を展示する予定で、日本刀では日本最大級の数を誇る博物館になります。

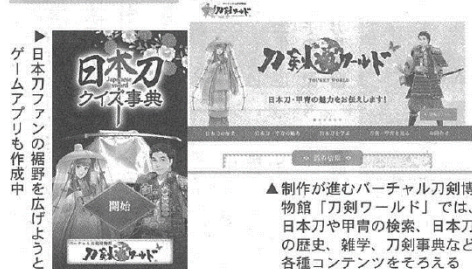
最初は私が昔から個人で収集してきたものを無料公開するつもりでしたが、計画を進める中でだんだん規模が大きくなっていき、これは無料で維持できない、事業としてやらなくちゃいけないなと。そうなる中身をさらに充実させなくてはなりません。資金はかかりますが、本当にいいものをつくりたいと思って取り組んでいます。

— 博物館を計画されて以降

「ワールド」をつくることで刀剣の魅力が広く浸透させ、後世にきちんと伝えたい。

今、私が一番力を入れているのは、インターネットで「刀剣ワールド」にも訪れることのできる「バーチャル刀剣博物館」。2018年の年明け早々に公開しようとして一生懸命作っているところです。日本刀は今、世界的にもブームですから、日本語以外の言語でも発信したい。そして、リアルなものと同レベルの魅力をどう結びつけていくかに挑んでいきたいですね。

▲名古屋刀剣ワールドの入り口が設けられる予定の栄タワール北館西側



日本刀ファンを視野を広げようというゲームアプリも作成中

▲制作が進むバーチャル刀剣博物館「刀剣ワールド」では、日本刀や甲冑の検索、日本刀の歴史、雑学、刀剣事典など各種コンテンツをそろえる

「栄タワール」の建設工事が進んでいます。併設される美術刀剣博物館「名古屋刀剣ワールド」の内容もかなり固まってきたようです。

左右田 重要文化財、重要美術品とされている刀剣をはじめ、常時200点以上の日本刀と美術的価値の高い甲冑を展示する予定で、日本刀では日本最大級の数を誇る博物館になります。

最初は私が昔から個人で収集してきたものを無料公開するつもりでしたが、計画を進める中でだんだん規模が大きくなっていき、これは無料で維持できない、事業としてやらなくちゃいけないなと。そうなる中身をさらに充実させなくてはなりません。資金はかかりますが、本当にいいものをつくりたいと思って取り組んでいます。

— 博物館を計画されて以降

開館に向け着々と進む美術刀剣博物館計画 モノづくりを掘り下げて価値を創造



東建コーポレーション
社長兼会長 左右田 稔

2020年6月開館予定の美術刀剣博物館「名古屋刀剣ワールド」。その構想と、「新しい価値」を生み出し続ける経営戦略を聞く。

所蔵品の充実も図られていますね

左右田 事業化すると決めた時、それならばと会社の資金も少し使って収集を始めた。そんな経緯から、現在は私の個人所有の物と、会社所有の物が混在しています。そこで近々、財団をつ

り、私の財産になっているものを全部会社に寄付。運営も所蔵品の管理は会社に任せていきます。とはいえ社員は専門知識のない者ばかりですから、オープンまでに育てていくことになります。

— なぜそこまでされるので

しようか。

左右田 重要文化財クラスの刀は日本の財産だからです。何百年も前につくった刀工がいて、それがずっと継承されてきて、たまたま今は私が預かっているという意識です。だからこそ「名古屋刀剣

— ところで、御社は今期の経営スローガンに「新しい価値の創造」を掲げていますね。

左右田 当社は貸貨物件に貸店舗機能を付けたところからスタートしており、より専門的に絞り込んでいく方が強みを持つ、ビジネスチャンスがあるという意識がひとつと私にはあります。一つのことを掘り下げていき、他社にはない機能を持たせることで市場を開拓できるからです。

— その一つが収納充実型賃貸マンションの開発ですね。

左右田 生活していく上でモノは必ずあるわけで、収納は非常に重要な要素です。そして収納というのは細かい部分の積み重ねであり、きちんと設計していかないと、実生活に合わないものが出来上がってしまう。賃貸だからと許されることではありません。われわれの業界は今後、競争の激しい時代になっていきますから、見過ごしていた空間も無駄なく使い、細かなところまで配慮した付加価値の高い商品を開発していきます。

— 御社はナスラックという建具などの製造部門も持ちますが、モノづくりへの思いを。

左右田 私たちの仕事は、アイデアを出して世の中で必要とされるものを開発。それを形にするわけですが、モノをつくる、ということがすべてなんです。そして私が今、最も着目していることは、オフィスの中の「モノづくり」です。私は昔から、工場をつくることにはできる限り無人化を考えてきました。機械ができることはすべて機械にさせ、社員は人間にしかでき

ないことを、より高度に行っていく。人と、ロボットやコンピューターとの役割分担です。

今後は本社の中でも電子化を徹底し、従来の仕事を減らした分、違う仕事をやらせてもらいます。今は改革の時代です。昔の戦い方はままでは負けてしまう。当社では以前から電子化を積極的に進めてきたつもりですが、それ以上に本気になってやらないといけない。アナログ時代のままだったらそろそろタイアですが、それを仕上けないといけません。

— ありがとうございます。

▲自動化設備が導入されたナスラックのシェル神戸工場